

平成 30 年度 中津川市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告
令和元年 5 月
中津川市（岐阜県）

○計画期間:平成30年7月～令和6年3月(5年9月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 30 年度終了時点(平成 31 年 3 月 31 日時点)の中心市街地の概況

平成 30 年 7 月以降、認定基本計画に基づき、基本理念「人をつなぐ、地域をつなぐ、未来につなぐ中心市街地」のもと、各事業を実施している。

近年では中山道馬籠宿の人气が高く、多くの外国人観光客が電車で中津川駅まで訪れている。また全国的な山城人気もあり、中津川駅前から苗木城址へバスで向かう観光客も多い。これらの観光客が中津川駅周辺の人の流れを作り出している。

一方、中心市街地の商店街では六斎市などの定例イベントを実施した際には前述の外国人観光客を含めた多くの来場者があるが、通常は空き店舗が多く客足も少ない状況である。既存の店舗が閉店した後に出店者が見つからず空き地や駐車場が増加しているため、新規出店を増やすべく、現在は空き店舗の調査及びその所有者と交渉をするなど、空き店舗の所有者と出店希望者のマッチング作業の準備を進めている。

中津川駅周辺にある観光客を中心とした人の流れについては、駅周辺以外への広がりが少ない。現在は滞在拠点の整備に向けて不動産所有者との交渉や、外国人向けの体験メニューの準備を進めているところであり、今後中心市街地全体での回遊性を高めていく予定である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】 (基準日：毎年度 4 月 1 日)

(中心市街地 区域)	平成 29 年度 (計画前年度)	平成 30 年度 (1 年目)	令和元年度 (2 年目)	令和 2 年度 (3 年目)	令和 3 年度 (4 年目)	令和 4 年度 (5 年目)
人口	2,826	2,769				
人口増減数	▲66	▲57				
自然増減数	▲29	▲31				
社会増減数	▲21	▲9				
転入者数	55	56				

※社会増減数には職権で住民登録が抹消された数は含まれていない。そのため、自然増減数と社会増減数の合計は人口増減数と一致しない。

2. 平成 30 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

普段から人が訪れて活気に溢れた商店街にするためには、中山道という歴史資産を活かすことが大切と考える。中山道中津川宿六斎市事業をはじめとしたイベントでは、来場者数が徐々に伸びている。これは商店街が毎回の実施内容に工夫を凝らしているからであり、その取組み結果の現れだと思われる。ただし、来場者数が増加するのは前述のイベント時のみであり、イベントがない期間は商店街のにぎわいが少ない。

近年は多くの外国人観光客が中津川駅前で電車からバスに乗り換えて馬籠宿へ向かっており、休日、平日を問わず多くの外国人観光客を中津川駅付近で見かける。しかし中津川駅前は馬籠宿へ行くための単なる中継地点に止まっている。この観光客を中心市街地内へ誘導できればにぎわいの創出に直結するため、統一案内サインの整備事業を推し進める必要がある。スマートフォンの所持が一般化している状況を見ると、従来どおり案内看板を設置するだけでなく、併せて QR コード等スマートフォンと連動して観光案内ができる方法も検討すべきである。

計画終了までの 5 年の中で各事業を着実に推進し、歴史あるまちとして魅力を高めることにより、確実に目標を達成することを期待する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
商業の活性化による吸引力の強化	新規出店数	31 店舗	50 店舗	32 店舗	B	-	③
観光客を惹きつける資源活用強化	特定施設等観光客入込数	123,000 人/年 (H28)	149,200 人/年 (R5)	138,378 人/年 (H30)	B	-	①
市民の居場所や活動の場所としての魅力の強化	都市福祉施設利用者数	153,330 人/年 (H28)	170,400 人/年 (R5)	154,115 人/年 (H30)	B	-	②
	歩行者通行量	4,525 人/日 (H29)	4,954 人/日 (R5)	4,750 人/日 (H30)	B	-	①

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

(1) 「新規出店数」について

主に空き店舗対策事業及び空き店舗活用支援事業により出店者を支援しているが、市内の中心市街地外に出店する者もあり、中心市街地内での出店数は1件のみである。まだ準備段階の歴史的資産を活用した町家再生事業と、翌年度から実施予定のトライアルショップ事業を進めることで目標を達成する見込みである。

(2) 「特定施設等観光客入込数」について

商店街の一角にある中山道歴史資料館では、工夫を凝らしたイベントを行うことで年々来館者数が伸びており、基準年と比較して1万人以上増加している。まちなか歴史発見散歩事業や間家大正の蔵活用公開事業など、その他事業と連携することで回遊性を高め目標を達成する見込みである。

(3) 「都市福利施設利用者数」について

各施設とも利用者数は横這いである。目標達成のためには平均して年間2,845人の増加が必要だが、今回は基準値と比較して785人の増に止まっており、このままでは目標達成が難しい。施設付近の歩行者数は増加しているので、施設の魅力を積極的に伝え、今後利用者数の増加を図る。

(4) 「歩行者通行量」について

中津川駅からバスで観光地へ向かう外国人観光客を、中心市街地の商店街方面へ誘導することにある程度成功していると思われる。測定地点により通行量の偏りがあるため、商店街全体を回遊するようにうまく誘導する必要がある。

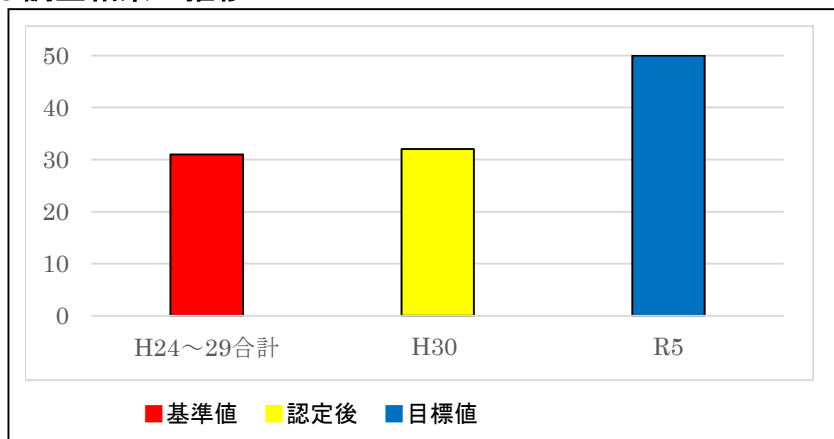
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

今回が初回のフォローアップ実施である。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「新規出店数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 6 7 参照

●調査結果の推移



年	(店舗)
H24~29 合計	31 (基準値)
H30	32 (基準値 +H30)
基準値 +H30~R5 合計	50 (目標値)

※調査方法：市及び商工会議所が関わった支援の結果、出店に結びついた者の集計

※調査月：毎年3月末

※調査主体：中津川市、中津川商工会議所

※調査対象：中心市街地での出店者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗対策事業（まちづくり会社・民間団体）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中心市街地に存在する空き店舗や所有者の調査を行いながら、所有者と出店希望者を結び付ける。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	空き家等の現況調査を行い、地図を作成した。地域住民にも地図を確認してもらい情報の精度を高め、今後に活用するための資料を作成した。空き家等の情報の把握により、出店希望者のニーズに合わせた情報提供ができるようになり、今後は年間2件ずつの店舗数増加を見込む。
事業の今後について	完成した空き店舗等の地図情報を活用し、出店希望者と空き店舗等所有者を結びつけ、新規出店を促進する。

②. 空き店舗活用支援事業（中津川市）

事業実施期間	平成29年度～令和5年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して出店する場合に、改修費用の1/2を上限として最大50万円を補助する。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	個人事業主の出店時の負担軽減につながるため、市全体で見ると当該事業の利用者は一定数ある。しかし中心市街地地域では家賃の折り合いがつかず出店に結びつかないことがある。空き店舗活用支援事業を利用した出店は1件あり、空き店舗が減ることで街のにぎわいにつながった。
事業の今後について	過去に当該事業を利用した出店者に対して、出店場所を選んだ理由等を聞き取り調査し、中心市街地地域での制度利用者が少ない原因を分析する。また、更なる周知を行い、新規出店の促進を行う。

③. 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店街ほか）

事業実施期間	平成30年度～令和3年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	①地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち調査事業（経済産業省）（平成30年度） ②地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（令和元年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	中山道を中心とした中心市街地内の町家に関して、地域住民並びに市内宿泊施設利用者（日本人・外国人両方）を対象に、ニーズ調査、マーケティング調査としてアンケートを実施した。町家をリノベーションし、令和5年度までに5店舗の新規出店を見込む。
事業の今後について	ニーズ、マーケティング調査結果を基にし、建物所有者との折衝、入居者の募集など、改修に向けて準備を進めていく。

④. トライアルショップ事業（まちづくり会社）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【未】
事業概要	まちづくり会社が休業日の店舗等を借り受けてトライアルショップとして活用することで、新たな出店希望者の掘り起こしと新規出

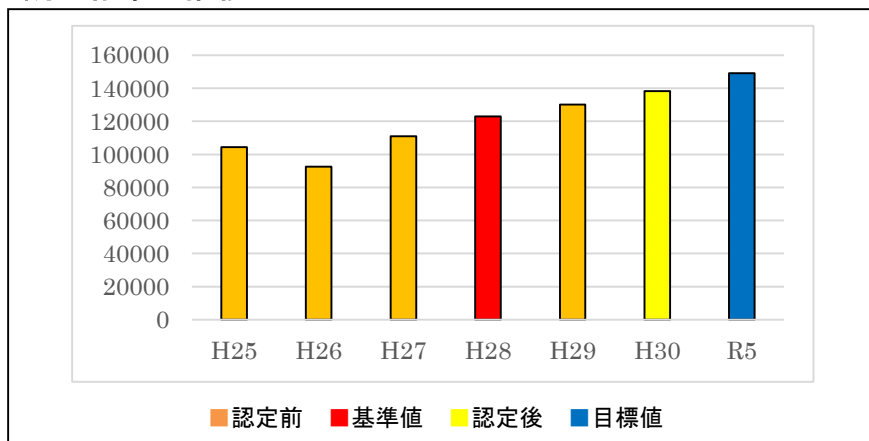
	店に繋げる。
国の支援措置名 及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業（経済産業省）（令和元年度）
事業効果及び進 捗状況	個人、事業者等に短期的に空き店舗等を貸し出し、試行的な出店から持続可能な出店につなげる。令和5年度までに2店舗の新規出店を見込む。
事業の今後につ いて	空き店舗対策事業で作成した空き店舗等の情報を活用し、商店街と連携し空き店舗でのトライアルショップ出店希望者を掘り起こす。

●目標達成の見通し及び今後の対策

空き店舗を活用した新規出店は1件のみであり、進捗が遅れている。平成30年度は主に空き店舗の現状を把握するための調査業務だったため出店に結びつきにくかったが、今後は調査結果を活用し、不動産所有者と出店希望者のマッチングを進め、目標達成を目指していく。

「特定施設等観光客入込数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 68～P. 69 参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H25	104,400
H26	92,500
H27	111,000
H28	123,000 (基準値)
H29	130,130
H30	138,378
R5	149,200 (目標値)

※調査方法：対象イベント及び施設への年間来場者数の合計

※調査月：毎月1回

※調査主体：中津川市

※調査対象：「春・秋の中山道まつり」、「中山道中津川宿六斎市事業」、「中山道歴史資料館」、「まちなか歴史発見散歩事業」、「地域文化資源を活用した体験型観光推進事業」、「間家大正の蔵活用公開事業」、「歴史的資産を活用した町家再生事業」

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 春・秋の中山道まつり（六斎市実行委員会・中津川商店街連盟）

事業実施期間	平成20年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中津川市内の中山道で行う、商店街が中心となった祭り。商店街が趣向を凝らしたイベントを実施し、集客を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	中山道中津川宿としての知名度向上に寄与しており、毎月の六斎市と同時開催することで、集客力を高めている。来場者数は基準値と比較して2,000増の22,000人となった。知名度向上によりウォーキング団体や観光団体が商店街通りをルートに組み込んで訪れるようになり、にぎわいが創出されてきている。
事業の今後について	魅力的なイベントを企画、広報し、市外からの観光客を取り込むことでにぎわいを増加させる。

②. 中山道中津川宿六斎市事業（六斎市実行委員会・中津川商店街連盟）

事業実施期間	平成20年度～令和5年度【実施中】
事業概要	江戸時代に中津川宿で開かれていた六斎市を、月に一回定期的に開催する。各店舗の出店と、毎回異なるイベントの開催により集客を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	地域間で交流し広域からの集客を図るため、隣接する恵那市の「まちなか市」と連携し、平成30年12月の六斎市で相互PRを行った。また、幅広い客層が参加できるように夜間開催も実施した。毎回のイベントに工夫を凝らすことで来場者を飽きさせず、リピーターが増えてきている。夜間開催については、日中は仕事等で都合が付き難い方も参加することができ、より多くの方に魅力を感じてもらうことができた。年間59,000人の来場者がまちなかを回遊し、にぎわい創出に貢献した。
事業の今後について	連携を始めた恵那市のまちなか市とは出店者の相互出店を進め、広域での人の流れを作り出してより多くの集客を目指す。

③. まちなか歴史発見散歩事業（まちづくり会社・中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちなかの歴史スポットをガイドとともに巡る歴史散策小ツアーを定期開催し、まちなかを回遊する観光客の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	80人募集したところ160人の応募があった。できる限り対応したが、最終的には合計95人が参加し、残り65人はお断りすることとなった。ガイドが魅力的な語り口で案内するため、歴史やまち歩きに興味のある参加者が多く集まった。複数ある歴史スポット目指して歩き回るため、まちなかの回遊性が高まった。
事業の今後について	対応できるガイドが1名しかいないため受入人数に限界がある。今後は対応できる人員を養成していく必要がある。また、実施月は2、3月のみで、コースも1種類だったため、他の季節にも実施したり、コースも複数用意したりすることで、さらなる回遊者の増加が期待できる。

④. 地域文化資源を活用した体験型観光推進事業（中津川商店街連盟・まちづくり会社）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	まちづくり会社と商店街が連携し、インバウンドを対象にした地域の伝統や文化に触れて体験するツアーを実施し、商店街のにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	体験メニューとして提供できるものは何かを洗い出し、方向性を検討した。ツアー開催後は、年間120人の利用者を見込む。
事業の今後について	商店街が中心となり、外国人向けの浴衣体験や琴の演奏など、どのようなメニューが最善か検討したうえで実施し、集客を目指す。

⑤. 間家大正の蔵活用公開事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【未】
事業概要	新たな観光スポットとするため、施設を改修、公開する。
国の支援措置名	国の支援措置なし

及び支援期間	
事業効果及び進捗状況	新たな観光スポットとして改修・公開することで、既存の歴史的建造物「脇本陣森家」と同等の利用者数 5,185 人を見込む。
事業の今後について	商業的活用も含め、観光資源としてより多くの観光客に利用される機能を検討する。より魅力的な施設にすることで集客数の増加が見込まれる。

⑥. 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店街ほか）

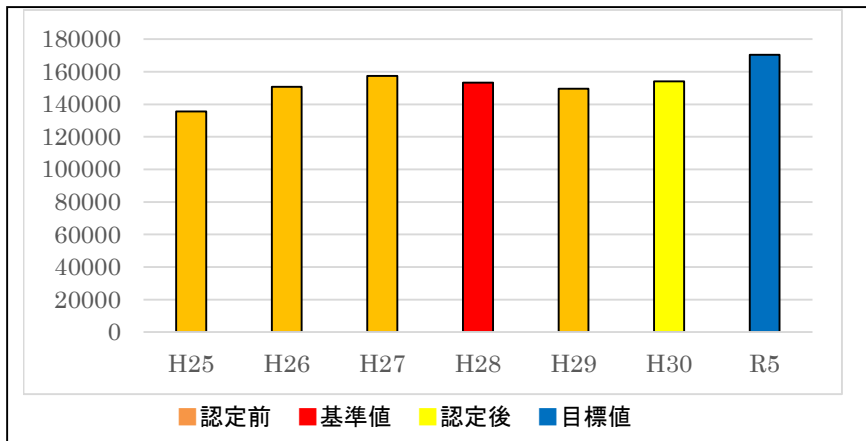
事業実施期間	平成30年度～令和3年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	①地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち調査事業（経済産業省）（平成30年度） ②地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（令和元年度～令和2年度）
事業効果及び進捗状況	中山道を中心とした中心市街地内の町家に関して、地域住民並びに市内宿泊施設利用者（日本人・外国人両方）を対象に、ニーズ調査、マーケティング調査としてアンケートを実施した。歴史的建築物改修後は、年間 8,568 人の利用者を見込む。
事業の今後について	施設所有者との交渉がまとまり出店者が決まることで、集客・回遊の増加が見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

外国人観光客の増加、六斎市への来客数の増加等で数値は伸びてきているので、目標の達成が見込まれる。未実施の事業があるので、事業が実施される次年度には更なる集客を期待している。

「都市福利施設利用者数」※目標設定の考え方認定基本計画P.70～P.72参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H25	135,562
H26	150,694
H27	157,385
H28	153,330 (基準値)
H29	149,553
H30	154,115
R5	170,400 (目標値)

※調査方法：対象施設の年間利用者数を合計

※調査月：毎年3月末

※調査主体：中津川市

※調査対象：「にぎわいプラザ（貸部屋）」、「にぎわいプラザ子育て支援センター」、「中央公民館（貸部屋）」、「まちなかステーションねこのて」

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新町ビル跡地開発事業【子育て支援機能】（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和4年度【未】
事業概要	子どもがのびのびと遊べる屋内遊戯施設を備え、各種子育て支援を受けられる親子の居場所となる施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	子、親、祖父母の3世代の交流の場としての機能を備え、多くの市民の快適な居場所となり、街中の賑わいを創出する。年間10,161人の来館者を見込む。
事業の今後について	施設建設に向けて、令和元年度から基本設計及び実施設計を行う。

②. まちなかステーションねこのて事業（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成27年度～令和5年度【実施中】
事業概要	親子を対象にした飲食の提供、母親同士のコミュニケーションの場を提供し、子育て支援の拠点となる事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業効果及び進捗状況	利用者数が 3,056 人あったが、基準値と比較して 147 人減少している。新たな利用者を増やすため、中山道中津川宿六斎市事業の日にも合わせて営業するようにし、普段訪れることのない市民に対して認知度の向上を図った。
事業の今後について	提供するサービスの魅力を高め、利用者数を増やしていく必要がある。子育てに関する各種企画等の講座に力を入れ、来場者の増加を目指したい。

③. 新町ビル跡地開発事業【貸施設機能】（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和 4 年度【未】
事業概要	市民や団体の活動や会議の場所となり、様々なイベントに対応できる空間や演出機器も備え、市民相互の交流並びにまちづくりの推進拠点となる施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	市民や団体の活動、各種イベントに活用されることで、年間 5,400 人の利用が見込まれる。市民が交流することで、まちなかの人の流れの増加に効果がある。
事業の今後について	施設建設に向けて、令和元年度から基本設計及び実施設計を行う。

④. にぎわいプラザ利活用促進事業（中津川市）

事業実施期間	平成 20 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	様々な用途でつかえる会議室、個展やイベント等が開催できる展示スペース、オフィススペース等を提供する。市民や団体が利用することで駅前のにぎわいが創出される。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	年間 54,313 人の利用があった。市民や市外事業者に向けて利便性を周知することで利用者数が増加し、にぎわいが創出された。
事業の今後について	利用者からの要望にできる限り答えることで利便性・快適性を高め、利用者数の増加を目指す。

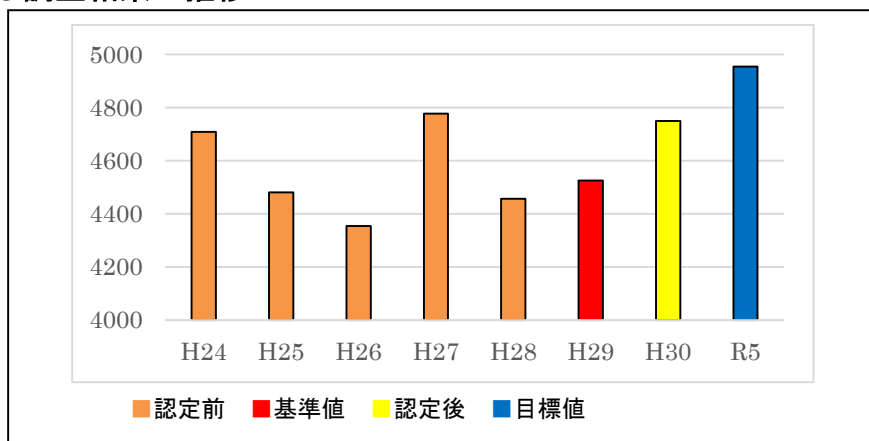
●目標達成の見通し及び今後の対策

年々利用者数は増加傾向にあるが増加率は低く、現在のペースでは目標達成が難しい。

その原因としては、施設の稼働率には余裕があるが、利用される部屋及び時間帯には偏りがあるため、利用者が他施設へと流れていくからだと思われる。今後は六斎市等のイベントと組み合わせたり、貸し出しできる部屋情報をさらに周知したりすることで、潜在的なニーズを掘り起こしていく。利用が少ない部屋と時間帯の稼働率を上げることで、利用者増を目指していきたい。

「歩行者通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 73～P. 74 参照

●調査結果の推移



年	(人/日)
H24	4,708
H25	4,481
H26	4,354
H27	4,777
H28	4,457
H29	4,525 (基準値)
H30	4,750
R5	4,954 (目標値)

※調査方法：実質測定値

※調査月：毎年9月末（平日）

※調査主体：中津川市

※調査対象：中心市街地内5ヶ所（蔦勘商店前、スズヤカメラ前、十六銀行前、駅前ビル東側、大鋸酒店前）を通行する歩行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新町ビル跡地開発事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和4年度【未】
事業概要	子育て支援、観光案内機能等を持ち合わせた複合的都市福利施設の整備を行い、まちなかのにぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	子育て支援の場として年間10,161人の来館者、また市民や団体の活動の場として年間5,400人の利用を見込む。来館者がまちなかに流れ、歩行者数の増加に貢献する。
事業の今後につ	令和5年度の供用開始に向けて、施設に必要な機能の検討と設計を

いて	行う。完成した際には交流人口の増加と中心市街地の活性化が見込まれる。
----	------------------------------------

②. 統一案内サイン整備事業（中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和2年度【実施中】
事業概要	中津川駅前から中山道エリアに至るまでの案内機能を充実させることで、観光客をまちなかへ誘導し回遊性を高める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	効果的な案内サインの情報を得るため、他市で設置されているものを視察した。視察結果を基に、効果的な機能、設置場所を検討している。案内サイン設置により、外国人観光客のまちなかへの回遊が1日15人増加すると見込む。
事業の今後について	より効果的なサインの内容と設置場所を検討する。サイン設置によりまちなかへの誘導や回遊性が高まり、歩行者通行量が増加してにぎわいの創出につながる。

③. 旧中津川幼稚園跡駐車場整備事業（中津川市）

事業実施期間	令和4年度【未】
事業概要	新町ビル跡地開発事業に合わせて駐車場を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	新町ビル跡地に建設される施設利用者の利便性を高め、利用者数を増加させるとともに、まちなかへの回遊性を促進させ、1日あたり43人の歩行者数の増加に貢献する。
事業の今後について	新町ビル跡地開発事業に合わせて事業を実施する。

④. にぎわい広場駐車場整備事業（中津川市）

事業実施期間	令和4年度【未】
事業概要	新町ビル跡地開発事業に合わせて駐車場を整備する。

国の支援措置名 及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進 捗状況	新町ビル跡地に建設される施設利用者の利便性を高め、利用者数を増加させるとともに、まちなかへの回遊性を促進させ、1日あたり43人の歩行者数の増加に貢献する。
事業の今後につ いて	新町ビル跡地開発事業に合わせて事業を実施する。

⑤. 空き店舗対策事業（まちづくり会社・民間団体）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	空き店舗や所有者の調査を踏まえ、所有者と出店希望者のマッチングを行う。
国の支援措置名 及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進 捗状況	空き店舗、空き地等の活用・把握のため現況調査を行い、位置図を作成した。地域住民とともにワークショップを行うことで情報の精度を高めることができた。新規出店後は、店舗への来客により1日あたり192人の歩行者数の増加を見込む。
事業の今後につ いて	空き店舗等の資料を活用し、不動産所有者と出店希望者を結びつけ出店につなげていく。空き店舗が減ることでのぎわいが創出され、歩行者通行量の増加が見込まれる。

⑥. 歴史的資産を活用した町家再生事業（まちづくり会社・中津川市・商工会議所・商店街ほか）

事業実施期間	平成30年度～令和3年度【実施中】
事業概要	官民が連携して中津川宿に現存する歴史的建築物を改修し、ゲストハウスや飲食店などとして活用することで、滞在、滞留する観光客数の増加を図る。
国の支援措置名 及び支援期間	①地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち調査事業（経済産業省）（平成30年度） ②地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（令和元年度～令和2年度）

事業効果及び進捗状況	中山道を中心とした中心市街地内の町家に関して、地域住民並びに市内宿泊施設利用者（日本人・外国人両方）を対象に、ニーズ調査、マーケティング調査としてアンケートを実施した。町家のリノベーション後は、1日あたり8人の歩行者数増加を見込む。
事業の今後について	施設所有者との交渉を継続していく。今後その町家を改修することで、集客数・回遊の増加が見込まれ、歩行者通行量も増加する。

⑦. トライアルショップ事業（まちづくり会社）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【未】
事業概要	まちづくり会社が休業日の店舗等を借り受け、トライアルショップとして活用することで、新たな出店希望者の掘り起こしと新規出店に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業（経済産業省）（令和元年度）
事業効果及び進捗状況	個人、事業者等に短期的に空き店舗等を貸し出し、試行的な出店から持続可能な出店につなげる。新規店舗への来客により、1日あたり32人の歩行者数増加を見込む。
事業の今後について	空き店舗対策事業で作成した空き店舗等の情報を使い、商店街と連携し空き店舗でのトライアルショップ出店希望者を掘り起こす。新規店舗の増加により集客力が上がり、歩行者数が増加する。

⑧. まちなか通行手形事業（まちづくり会社）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【実施中】
事業概要	商店街での商品購入の際に、ポイントの付与や優遇特典等を手形として発行する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	実施方法に関する情報の収集及び検討をしている。まちなか商店街の回遊性が高まり、1日あたり25人の歩行者数増加を見込む。
事業の今後について	実施方法が決まり次第、協力店舗を募集して事業を実施する。商店街への来場者が増え、歩行者通行量の増加が見込まれる。

⑨. まちなか美術館事業（中津川市）

事業実施期間	平成30年度～令和5年度【実施中】
事業概要	中心市街地の商店や公共施設等に市や団体、個人が所有する絵画を展示することで、有名な画家を多く輩出した文化のまちのイメージを高める。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	にぎわいプラザ内に絵画等が展示できるギャラリーを設置した。5地点に作品観賞場所を整備することで、1日あたり25人の歩行者数増加を見込む。
事業の今後について	商店街内でも絵画等を設置できる場所を検討する。美術に関心のある者が訪れて回遊性が上がり、歩行者数の増加が見込まれる。

⑩. 間家大正の蔵活用公開事業（中津川市）

事業実施期間	令和元年度～令和5年度【未】
事業概要	新たな観光スポットとするため、施設を改修、公開する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	大正時代の建築物を展示会や飲食等ができる観光スポットとして整備し、観光客入込数の増加に寄与する。既存の「脇本陣森家」の利用実績と同等の5,231人の利用を見込み、1日あたり34人の歩行者数増加を見込む。
事業の今後について	商業的活用も含め、観光資源としてより多くの観光客に利用される機能を検討する。より魅力的な施設にすることで集客数が上がり、歩行者数の増加が見込まれる。

⑪. まちなかステーションねこのて事業（中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成27年度～令和5年度【実施中】
事業概要	親子を対象にした飲食の提供、保護者同士のコミュニケーションの場を提供し、子育て支援の拠点となる事業である。
国の支援措置名	国の支援措置なし

及び支援期間	
事業効果及び進捗状況	利用者が 3,056 人あった。利用者数を増加させ、1 日あたり 36 人の歩行者数増加を見込む。
事業の今後について	提供するサービスの魅力を高めて利用者数を増やし、まちなかの回遊者の増加につなげていきたい。

●目標達成の見通し及び今後の対策
外国人観光客は鉄道を利用して中津川駅へ訪れ、バスに乗り換えて市内の観光地へ移動している。鉄道を利用する観光客は車の駐車場所を気にせず徒歩で商店街を回りやすいが、商店街の店舗情報を入手しにくい。中津川駅前バスを待つ時間に商店街を回遊してもらえるように、飲食店や商店情報の発信が必要と思われる。